

平成27年3月期 第1四半期
決算概要

KANEKA

Go Beyond The Border !

2014年8月8日(金)

株式会社 カネカ

目 次

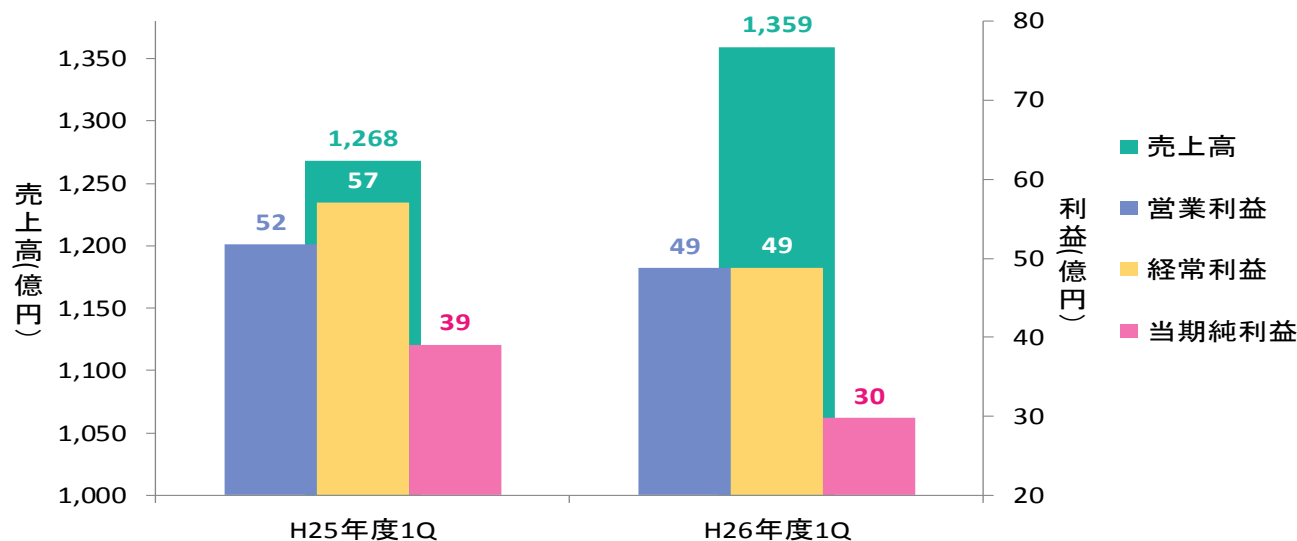
| | | |
|---|------------|------|
| § | 業績概要 | P. 3 |
| § | セグメント別事業概況 | P. 4 |
| § | 業績予想 | P. 5 |
| § | トピックス | P. 6 |

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 売上は順調に伸長し対前年7.2%の増収、四半期で過去最高を更新。
- 利益は食品・電子材料の一時的な落ち込みの影響を受け減益となるが、第2四半期以降巻き返す見通し。

(単位：億円)

| | H25年度1Q | H26年度1Q |
|--------|---------|---------|
| 売上高 | 1,268 | 1,359 |
| 営業利益 | 52 | 49 |
| 経常利益 | 57 | 49 |
| 四半期純利益 | 39 | 30 |



- 売上高は6セグメントが増収。機能性樹脂、ライフサイエンスが大きく伸びる。
- 営業利益は、化成品、機能性樹脂、ライフサイエンス、合成繊維が健闘し増益となるも、食品、電子材料の一時的な落ち込みが大きく響きカバーしきれず。

- 機能性樹脂：モディファイヤーは事業拡大が国内外で進んだ。変成シリコーンポリマーは、オンリーワン製品としてユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに順調に販売が拡大
- 食品：食の多様化に対応し、ニーズを先取りした新製品の拡販に努めたが、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続するなかで原料価格が上昇。販売物流システム更新など販売給体制の整備に伴い、一時的に経費が増加
- ライフサイエンス：医療機器は血液浄化システム、カテーテル事業とも順調に拡大。医薬中間体は販売数量が増加、API（医薬品としての有効成分を有する原体）が堅調。還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果が広くサプリメント市場に伝わり順調に需要拡大が進み販売が増加
- エレクトロニクス：超耐熱ポリイミドフィルムは、販売が堅調。光学材料は低調に推移。超高熱伝導グラフィートシートは販売価格が下落、低調に推移。太陽電池は、消費税率引上げ後の住宅着工戸数の大幅な減少の影響を受けたが、極めてユニークな建材製品として市場認知が広がるとともに、コストダウンや新製品開発を主体とする事業構造改革が進み採算は改善した

(単位：億円)

| | 売上高 | | 営業利益 | |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| | H25年度1Q | H26年度1Q | H25年度1Q | H26年度1Q |
| 化成品 | 267 | 285 | 8 | 9 |
| 機能性樹脂 | 204 | 241 | 20 | 26 |
| 発泡樹脂製品 | 153 | 158 | 6 | 6 |
| 食品 | 329 | 338 | 15 | 1 |
| ライフサイエンス | 105 | 126 | 10 | 21 |
| エレクトロニクス | 113 | 109 | 6 | 0 |
| 合成繊維、その他 | 97 | 103 | 21 | 25 |
| 調整額 | — | — | △35 | △38 |
| 計 | 1,268 | 1,359 | 52 | 49 |

- 業績予想は変更していない。

(単位:億円)

| | 26年3月期実績 | | 27年3月期予想 | | 前年比 | |
|-------|----------|-------|----------|-------|-----|-------|
| | 上期 | 通期 | 上期 | 通期 | 上期 | 通期 |
| 売上高 | 2,572 | 5,248 | 2,700 | 5,600 | 352 | 6.7% |
| 営業利益 | 114 | 248 | 120 | 300 | 52 | 20.9% |
| 経常利益 | 118 | 260 | 120 | 290 | 30 | 11.7% |
| 当期純利益 | 71 | 137 | 75 | 170 | 34 | 24.5% |

【27年3月期 前提条件】 為替：102円/US\$、140円/EUR、国産ナフサ¥70,000/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(グローバル展開)

○米テルモBCT社とコラボレーション契約を締結

Terumo BCTとコラボレーション契約を締結し、新型LDL吸着システムの米国治験申請を行います。当社は2009年に制定された「KANECA UNITED宣言」で健康に関する分野を重点分野の一つと位置付けております。今後も医療、ヘルスケアに貢献する研究および商品開発を積極的に展開していきます。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140521>

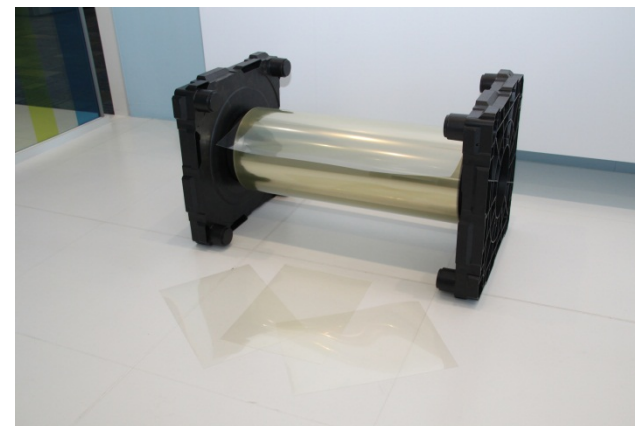
(新製品)

○世界初の複屈折ゼロの光学フィルムを実用化

日東樹脂工業株式会社との共同開発を行って参りましたが、カネカ独自のポリマー分子設計技術および押出フィルム生産技術により、このたび世界で初めて実用性を兼ね備えた押出法による『ゼロ・ゼロ複屈折アクリルフィルム』の開発に成功しました。この用途で2016年に売上高200億円を目指します。

ご参考:

<http://www.kaneka.co.jp/service/news/140516>



(新製品)**○摂取時は液体で胃の中で半固形状になるよう設計した粘度可変型流動食を開発**

本製品は、国内半固形流動食市場で高いシェアをもち、事業の拡大・強化のために更なる製品拡充を目指していたテルモ株式会社のニーズに一致し、本年4月、開発から製品供給は当社、販売はテルモという内容の売買契約を締結しました。本年6月末より販売を開始し、2016年には本製品で売上高6億円を目指します。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140620>

○ポリオレフィン系ホットメルト接着樹脂の市場開発を強化

独自技術を利用して開発したポリオレフィン系ホットメルト接着樹脂の市場開発を強化します。すでに自動車外装、内装部材用途に採用され販売を開始しておりますが、家電、住設分野など、他の分野の工業用部材向けに用途展開を図ります。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140710>



(新製品)**○貝毒プランクトン検査キット実証評価開始のお知らせ**

独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所と共同で「貝毒プランクトン検査キット」を開発し、全国の都道府県の水産関係試験研究機関で実証評価を開始しました。

当社は、2009年に制定された「KANECA UNITED宣言」で健康に関する分野を重点分野の一つと位置付けています。今後も健康に貢献する研究および商品開発を積極的に展開していきます。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140715>

**○ポリプロピレン系樹脂の成形性を改善できる加工性改良剤を開発**

独自技術によるポリプロピレン系樹脂の加工性改良剤を開発し本格販売を開始しました。樹脂に少量添加することで、ポリプロピレン系樹脂の熱成形性、発泡性を改良できます。加工性改良剤などの改質樹脂の他、接着樹脂などのポリオレフィン系樹脂分野の製品群として、2020年に売上高100億円を目指します。

ご参考: <http://www.kaneka.co.jp/service/news/140717>

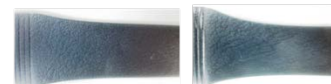
●ドローダウンが小さくなります。



●伸びが均一となります。



●シボ変形が抑えられます。



KANEKA

カガクでネガイをカナエル会社